

評価項目のポイント(中間評価)

(ア)リーダーを養成する学位プログラムの確立(30%)

- ◆ 優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが整備されているか(プログラムの整備)
- ◆ コースワークや複数専攻制、研究室ローテーションをはじめ教育指導の内容が広範かつ体系的に整備されているか(カリキュラムの整備)

＜その他＞「研究指導の充実」、「切磋琢磨し合う取組の実施」

(イ)産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性(30%)

- ◆ 修了者が各界のリーダーとしてグローバルに活躍する多様で具体的なキャリアパスおの見通しを提示できているか(キャリアパスの見通し)
- ◆ 共同研究やインターンシップを始め実践性を備えた効果的な研究訓練等が行われ、各学生に対して産学官民等の各界より高い評価が得られているか(学生への外部からの評価)

＜その他＞「汎用力の育成」、「外部機関の参画」

(ウ)グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備((ウ)～(オ)で20%)

- ◆ 国内外の多様なセクターから第一級の教員を結集した密接な指導体制や、メンターやTAの活用をはじめ組織的な支援体制が構築されているか(指導体制の構築)

＜その他＞「改革意識の共有」、「グローバルな環境整備」、「国際ネットワークの形成」

(エ)優秀な学生の獲得

- ◆ 多様な背景を持つ優秀な学生が獲得できているか(学生の獲得)

(オ)世界に通用する確かな質保証システム

- ◆ Qualifying Examinationなど修得能力を包括評価する確かな質保証システムが構築されているか(質保証システムの構築)

＜その他＞「学位審査体制の構築」

(カ)事業の定着・発展(20%)

- ◆ 支援期間終了後の学位プログラムの定着・発展に向けて、具体的な取組に着手しているか(定着・発展のための取組状況)

＜その他＞「マネジメント体制の構築」、「PDCAサイクルの構築」、「経費の適切な執行」

評価項目のポイント(事後評価)

(ア)リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築(10%)

- ◆ 優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが構築され、コースワーク等による広範かつ体系的な教育研究指導が行われたか(プログラムの最終形態の確認)
- ◆ 国内外の多様なセクターからの第一級の教員、メンターやTAの活用をはじめ組織的な指導体制や、外国人学生・教員との関わり及び外国語の使用等によるグローバルな教育研究・生活環境が構築されたか(指導体制等の構築)

＜その他＞「改革意識の共有」、「学生の質保証」、「PDCAサイクルの構築」、「経費の適切な執行」

(イ)修了者の成長とキャリアパスの構築(50%)

- ◆ 学生が、俯瞰力や独創力などの汎用力を身に付けることができたか(汎用力の育成)
- ◆ 修了者が産学官民等の各界のリーダーとしてグローバルに活躍するキャリアパスにつながる就職や起業等の実績を上げているか(就職、キャリアパスの実績)

＜その他＞「把握手法の構築」

(ウ)事業の定着・発展(40%)

- ◆ 支援期間終了後も学位プログラムの定着・発展に向けて、計画に沿った教育研究組織の再編、テニユア教員のポストの配置計画、学位審査体制の整備、学内の資金再配分計画やFD・SDの実施、教育実績の重視など教職員の評価基準の見直し等について具体的な取組が実施され、十分継続できるか。また、それに加えて、学生が学修研究に専念できる経済的支援の定着や新しい専攻や研究科の創設など計画を上回る教育研究組織の再編等に意欲的に取り組んだか(定着・発展のための取組状況)

＜その他＞「外部連携の継続性」、「マネジメント、波及効果」